

●次期環境基本計画 基本目標策定参考資料

骨子時の基本目標（案）		計画における取扱い	策定委員会・環境保全審議会からの意見、提案		事務局の対応	意見を踏まえての基本目標（案）
基本目標 1	いのちが息づく 水と緑のまち	・調布市に残る貴重な崖線樹林地、都市農地、多摩川や野川をはじめとする水辺環境等の自然環境やそこに息づく生態系を守り・育て、多様な生きものが息づくまちを目指し、市の取組や市民、事業者との連携、行動変容等に係る施策の方向を示します。	策定委員会での意見	・崖線樹林地を守っていくことに関し、環境基本計画の中でも崖線樹林地を守る姿勢を明確にした方がよい。	・市のみどりの重要な構成要素でもある崖線樹林地について、市の関連計画である都市計画マスタープラン、緑の基本計画においても、崖線樹林地の保全は重要な取組と位置付けられています。次期環境基本計画でも基本目標 1 に紐づく施策や事業内容で保全について位置付けます。 ・環境目標については、骨子時の事務局（案）を素案での環境目標（案）としております。	・いのちが息づく 水と緑のまち
			環境保全審での意見	・生物多様性に農業を含めて柱の 1 つにさせていただきたい。環境の多様性と種の多様性、種の内部の遺伝的な多様性の 3 つを含めた多様性について考えていただきたい。	・農業や生物多様性の保全は、基本目標を達成するうえでも重要な取り組みと考えています。素案において、施策の方針又は施策に反映します。	
基本目標 2	快適さと美しさが調和する住みよいまち	・安全・安心で快適に暮らせるまちを目指して、都市美化の推進や、大気、悪臭、水質、騒音、振動等の保全、化学物質の適正使用・管理に係る施策の方向を示します。	策定委員会での意見	・施策の方向性について「きれいな空間」という表現があるが、音を含める表現はどうか。 ・施策の方向について、「きれいな空間の確保」，「環境リスクの対応」が挙げられているが、この二つの線引きが難しく疑問だ。今後施策が出てから議論をしたい。	・素案において、施策の方向性や施策において施策の立てつけを整理し分かりやすい文言とします。 ・環境目標については、骨子時の事務局（案）を素案での環境目標（案）としております。	・快適さと美しさが調和する住みよいまち
			環境保全審での意見	・基本目標 2 の施策の方針で「快適な空間の確保」の「快適な」は、「清らかな」などとはどうか。	・素案において、現行案やいただいた意見を参考に伝わりやすい文言とします。	
基本目標 3	気候危機に立ち向かい安心して暮らせるまち	・前計画において一つの基本目標内に位置付けた脱炭素と循環型社会を目指すまちを個別に位置付けます。ゼロカーボンシティ宣言に基づき、市民や事業者による環境に配慮した行動を促し、ゼロカーボンシティの実現を目指す施策の方向や、気候変動に起因する近年の猛暑や豪雨など市民生活への影響を減らすための適応策に係る方向を示します。	策定委員会での意見	・基本目標 1，2，4 はいろいろな活動をした結果、調布市がこういうまちになっているという表現がされているが、3 だけは、誰かが何かをするかという主語が誰か。行動と言っているので、前半の部分が基本目標 1，2，4 と少し言葉の受け取りのニュアンスが違うから、「こういう活動をして、こうなった」という表現になると、同じ表現で伝わるのではないか。	・現行の環境基本計画の基本目標で「脱炭素（で循環型の）社会をめざすまち」の表現を用いていることに立ち返り、活動の結果、実現したまちの姿を表す表現に改めます。 なお、ゼロカーボンシティ宣言を踏まえ、脱炭素社会の表現はゼロカーボンシティに改めます。	・ゼロカーボンシティが実現するまち
			環境保全審での意見	・基本目標 3 の赤字部分は、「気候変動に起因する猛暑など市民生活への影響」にした方が分かりやすい。	・ご意見を踏まえ、本シートの「計画における扱い」の下線箇所とおり修正しました。	
基本目標 4	資源がめぐる資源循環のまち	・前計画において一つの基本目標内に位置付けた脱炭素と循環型社会を目指すまちを個別に位置付けます。調布市一般廃棄物処理基本計画をはじめ廃棄分野の諸計画に基づき、資源循環型まちづくりの推進を目指し、廃棄物の抑制と資源循環を徹底し、使い捨てに依存しない循環型の社会・経済システムへの移行するための施策の方向を示します。	策定委員会での意見	・「資源がめぐる、資源循環型のまち」の表現について、同じ意味を持つ言葉が 2 つ続いているので、言葉の整理が必要。 ・「資源がめぐる」の表現について「廃棄物が無い」、「ごみが少ない」、「使い捨てがない」の表現に置き換えできないか。 ・廃棄物に関する計画との整合性をとってもらいたい。	・一般廃棄物処理基本計画においても、環境負荷の低減が重要な要素として位置付けられており、その考え方（3 R の推進による環境負荷の低減につなげる）を踏まえ、資源の循環を推進することにより、二酸化炭素排出抑制、大気汚染等による環境への負荷の低減を図ることを目標とした表現に改めます。 ・基本目標については、各々の目標すべてに関連性があり、ともに連携して取り組みを進めるべきものと考えております。	・資源循環による環境負荷を低減するまち
			環境保全審での意見	・基本目標 3 と 4 が分かれているが、前計画では 1 つの基本目標内だったので、従前計画と同様な枠組みのほうがよいのではないか。 脱炭素も資源循環も同時に相互関連を持って政策を進めていく方がよいのではないか。		
				・ゼロカーボンシティの実行計画を環境基本計画策定委員会の中で議論するようにしたので、3 と 4 の視点を両方併せて考えることでよいのではないか。		
基本目標 5	学び合い行動し合う共創のまち	・環境への取組を行政だけでなく市民、事業者、市民団体等多様な主体が担い手となって進める社会の実現を目指すための施策の方向を示します。	策定委員会での意見	・施策の方針又は中身において、学び合う対象の記載があるとより、学び合いの表現が具体化されるのではないか。	・学び合いの対象について、施策や事業内容において記載します。 ・環境目標については、骨子時の事務局（案）を素案での環境目標（案）としております。	・学び合い行動し合う共創のまち